

**寒さなんか
ふつとばせ**

寒さに負けない元気な子供になろうと途別小学校の第一回リンクまつりが二月六日開催されました。

まぐべつ

'80

338

•発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555)4-2111
•編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 •印刷・ソーゴ印刷

3

町づくりは 地域連帯のなかで



第三回「明るい町づくり住民大会」が一月二十日に札内福祉センターにおいて百八十名が参加して開催されました。

この大会は、前回まで「コミュニティ住民大会」の名称で行なわれていたもので、それぞれの地域が直面している生活課題を地域連帯の中で解決の道を求め、より住みよい町づくりを行おうというものです。今回は「地域づくりと住民の役割」を中心テーマに①子供の健全育成、②老人の生きがい、③むだのない生活の三分科会に分かれ話し合いが行われました。各分科会で出された意見をご紹介しますので参加できなかった皆さんも考えてみてください。

子供の健全育成を目指して家庭、地域はどうしたらよいか

明日の幕別を担う子供たちの健全な成長は誰れもが願っていることですが、最近、子供たちの非行化は増え続け、また、年少化の傾向にあります。

子供たちの非行化を未然に防ぎ明るい地域社会をつくるには家庭地域はどうあるべきかが話し合われました。

(発言)——いま、家庭にあつて子供たちは過保護と放任のなかで育てられ、家族の対話もなく物質面だけで満されていると言える子供を育てるのは親の責任であり子供と絶えず対話をもち、子供から信頼される親にならなければなりません。子供は学校を含めた地域社会で育てる考えが必要だ。家庭と地域の連携で非行は未然に防げるのではないか。地域で子供の行事を行う場合、親がすべて準備す

るのではなく子供たちも参加させる子供たちで作りあげるようにすることも必要だ。

第二分科会

老人の生きがいを願う家庭地域はどうしたらよいか

町の基礎を築いてくださったお年寄りたちが物心ともに豊かななかで生活されることを願うものですが、独り暮らしのお年寄りや老夫



婦世帯の増加など核家族化による問題がクローズアップされています。お年寄りが、より充実した生活を営めるためにはどうしたらよいか話し合われました。

(発言)——流動する地域社会でいつも取り残されるのはお年寄りだ。行政を含め地域はお年寄りが地域に参加できる環境づくりをしなければならぬと思う。お年寄りも家にとじこもらず地域へ積極的に参加するべきだ。

また、お年寄りからも意見が出されました。

(発言)——家族や地域の人から愛される老人になろう。地域の行事などにも進んで参加しよう。

第三分科会

むだのない生活を築くため地域活動をどう進めたらよいか

話し合いに入る前に、町生活経

校舎の落成と開校

八十年を祝う

糠内小学校

糠内小学校の開校八十年記念式と校舎落成式が二月十七日に開催されました。

糠内小学校は、明治三十三年に斉藤密音の布教場を仮教室として授業をはじめたのが最初で、文字通り寺小屋でした。この年の十一

営推進協議会から、家計簿記帳に取り組み生活内容を見直すことによつてムダな支出が少なくなったことが発表されました。

幕別町に新生活運動が始まって以来三十年近い年月がたつていますが、まだ地域に定着しているとは言えません。ムダのない生活を築くためにはどうしたらよいか話し合われました。

(発言)——私たちの生活のなかにはかなりムダなものがある。生活を見直し節約のなかから豊かな生活内容にしたい。新生活運動は個人の力だけでは無理だ。地域や職場全体での取り組みが必要と思う。男性は新生活運動に対する認識が足りない。新生活運動実践要綱のなかには現実とそぐわないものもある。新生活運動を見直し地域連帯のなかでできることから実行していこう。

月には糠内簡易教育所の認可を受けましたが、寺小屋での授業は明治三十五年まで続けられ、この年に五位簡易教育所に、明治四十一年二月に糠内尋常小学校と、それぞれ改称しています。

糠内小学校では開校八十年、昨年実施する予定でしたが、校舎の改築を実施中であつたため延期し校舎の完成式と同時に開催したもので、児童のほか父兄多数が参加して祝いました。

各地で熱烈歓迎

現地の青年とスポーツ交流

昭和五十四年十一月十九日のお昼、私たちを乗せた英国船コーラル・プリンセス号は静かに小樽港を出港した。この道民の船には、

私たち団員四百三十人、それに管理部長職員、随行者を含め総勢四百九十人が参加し、十二月十日までの二十二日間にわたって上海、香港、マニラ、沖縄を訪問しましたが、私にとっては貴重な体験の毎日でした。

道民の船に参加するにあたって十数回におよぶ分団、班別の事前研修、十勝分団としての仲間づくり、洋上祭の準備などをおこなった。出港前日には真駒内青少年会館において結団式を開催し道内十四分団の一致団結を誓った。

出港の日は曇りが降りしきっていた。私にとっては初めての船旅。船酔いを気にしていたが、その心配は取り越し苦労であった。船内では避難訓練、東南アジア諸国の現状、青年、婦人活動などについて一日四時間の研修、夜は二時間の自主研修をおこなった。

私のキャビンは四人部屋、船底の一番うしろのためスクリーンの

音がうるさく最初の夜は眠ることが出来なかった。だが住めば都、二日目からは気にならなくなった。

水平線ばかりをみて四日目の深夜、中華人民共和国領チヤンシー省の揚子江河口を通過し朝六時ころデッキに出てみると上海港に入港する所であった。河口から上海港まで六時間ほどたつて、やっと入港したのだ。この日の朝は厳しく冷えこんだが快晴であった。初めての外国を見て、また、中国を見てやっと異国にきたというところ、これからの視察に少なからぬ不安をおぼえた。

上海では堂垣内知事と合流した岸壁では少年先鋒隊の熱烈歓迎を受け、バス(日本製)十数台をつらねて市内見学に出発した。道路には街路樹が続き、ふとんや洗濯物が家々の窓に木にかけてあった。この時間は通勤時間のため自転車やバスで出勤する風景がみ

れ、説明によるとバスの運転手の三分の一は女性で占められているということだった。また、街の中では解放軍の兵士をよくみかけたほか日本製の車も多かった。

最初の見学場所は上海工業展覽館。繊維製品や電気機器、機械、化学、工芸など最新鋭製品が豊富に展示されておりました。急激な発展の様子がうかがえた。

見学後は別々の行動となり、私たちのバスは上海ろう啞学校へ向った。この学校は一九六六年に設立され、設立当時は二百五十人もいた生徒も現在は百八人。ここでは中学校までの教育を受けるところで、一年生から三年生までは口振りで教え、四年生から六年生までは口振り手振り、八年生ともなると手話で話せるようになるそうです。ここを卒業すると学力のある者は技術学校へ、他は福祉の仕事につくことになっています。女

労働者団地内の家庭を訪問



性(円)あれば生活出来るそうです。こののち人民公社、少年宮を視察しましたが、どこでも日中友好熱烈歓迎で迎えられ、特に上海青年宮では現地の青年とスポーツ交流、交歓会などを通して心のつながりを深めあった。だが最も印象に残ったことは「大きくなったら」と尋ねると「国のために働らく」と答えた子供のことである。子供は国の宝であるという国家の教育体制とともに、今だに脳裏から離れることはない。上海を出発する際、多くの人達に見送りを受け中国を後にした。

性の校長先生は「児童はゆううつな気持ち(ろう啞のため)のため人々と付きあいは少なかった。だが今では話すことのほか活動も出来るので毎日が楽しく、また先生国家、世界を愛する、と言っています」と語ってくれました。中国にはろう啞学校が九校あるそうです。

次に訪れた労働者団地では家庭訪問をおこなった。団地には住宅が八百戸あり、水道、ガス、電気が完備されているほかデパート、食品店、飯店、理容・美容店、郵便局、銀行、映画館、公園、病院

それに幼稚園五か所、託児所四か所、小学校六か所、中学校三か所がそろっています。物価は安く普通の家庭で一か月六十元(約一万

道民の船

コース

小樽11月19日発→上海23日着・25日発→香港28日着、29日発→マニラ12月1日着、2日発→沖縄5日着、6日発→小樽10日着解散

一行はフィリピン建国の父、ホセ・リサル像の前で献花式をおこなったが、正装の団員は全員汗びっしょりとなった。その後(次のページにつづく)

サール記念館、マニラ大学、サンチャゴ要塞、米人墓地、タガイタイを見学し婦人団員は現地家庭を訪問して交流を深め、また、夜は現地の青年、婦人と船上レセプションを開催した。マニラを十二月六日に出発し沖繩までは船内で洋

上祭がおこなわれ、盆踊り、演劇コーラス、主張発表、のど自慢など開催し賑わった。沖繩では守札之門、ひめゆりの塔、北島の塔と、戦時中の傷跡を見るにつけ、戦争を知らない私ですが、深く心を打たれるものがある

りました。長い船内研修、訪問した国々での研修を終えた今、諸外国と日本の関係、違いなど、私にとつて色々勉強させられることが数多くあり、また自分の視野の狭さを知るとともに、この研修で日本を振

り返ることが出来たことは、大きな収穫であったと思います。日本の自然、日本という国、日本人の心……やはり日本が私にとって最も住みやすい行動しやすい国であると思えました。道民の船に参加出来たことは本当に良かった

たと思っています。最後に、今回の道民の船に私を参加させてくれた両親そして教育委員会をはじめ地元関係団体の皆さんに心から感謝を申しあげます。道民の船には氏家政枝さん(新川)も参加しました。

普段から対策を考

えておきましょう

「災害は忘れたころにやってくる」といいます。昭和二十七年三月四日に発生した十勝沖地震。あれから二十八年もたちました。最近、新聞やテレビで地震対策が報道されています。地震はまだ予知することが出来ず防止することも出来ませんが、普

害は忘れた頃に...

勝沖地震から28年日

段から対策を考えておくことが被害を最少限度ににくい止める最良の方法といえましょう。以下は地震が発生した時の注意と用意しておきたい品々について、お知らせいたします。

グラツときたら
グラツときたら落ちついて火の元の安全を確かめ、かなり大きな地震の場合は火の元より、まず身の安全を守るため丈夫なテーブルの下などに避難しましょう。倒れやすい家具の近くは危険です。また、戸外に避難した時はブロック塀に近寄らないよう子供さんにも注意しておきたいものです。最近の石油ストーブには耐震装置がついているため、ある程度の揺れがきたら自動的に作動します。だが、長い間、地震が発生していないため、耐震装置はついていないが水が入っていないという例が多く、万一に備えて定期的に点検しておくことも必要です。

しかし、火の元の安全が大切といっても自分や家族の生命安全を最優先することが大切で、宮城県沖地震の時に、煮えたぎつ

非常持ち出し品

水
食糧はなくても、まず水。十リットル入りのポリタンクなら、三

懐中電灯
懐中電灯は出来るだけ大型のものを用意しておきましょう。予備の電池も忘れないように。懐中電灯のほかローソクも用意しておきましょう。

食糧
地震の時に限って、ごはんが食べなくなると思います。真空パックのごはんを用意するほか、インスタントラーメンなども用意しておきましょう。卓上コンロ、小型のプロパンも必需品です。

薬
各種の薬が入っている救急箱のほか、赤ちゃんのいる家庭では紙オムツ、ミルク、哺乳ピンは欠かすことは出来ません。

以上は、ほんの最低限の必需品です。このほか家庭の皆さんで、どのようなものが必要とするか話しあわれ用意するといいいでしょう。

十勝沖地震の状況

昭和二十七年三月四日午前十時二十四分三十分、十勝沖地震が発生、各地に多くの被害を



省エネひとコマ

生乾きの状態でアイロンをかけると生地をいためたり電気をムダに使うことになりやす。よく乾いたものに霧を吹いて仕上げるカスチーム・アイロンを使用しましょう。

アイロンをかけるときは繊維に適した温度を知っておくと電気をムダなく使うことが出来ます。

麻 (一八〇～二二〇度)	綿 (一六〇～一八〇度)	毛 (一四〇～一六〇度)	絹・レーヨン (一二〇～一四〇度)	ナイロン (一一〇～一四〇度)	アセテート (一一〇～一三〇度)
--------------	--------------	--------------	-------------------	-----------------	------------------

石 9日那須、16日笹井、20日幕
番 別興業、23日農協、30日堂前
日 9日宗岡、16日杉本、20日山
当 ス (3月)

地震より恐ろしい火災

十万人近い人が死亡した関東大地震。ところが、この地震で倒れた家屋の下敷きになるなど地震そのものによる死者は僅か二千人にすぎず、その他の人々は地震ののちに発生した火災によって亡くなったと言われています。地震が発生したら、まず火災をおこさないようにすることが最も大切なことは、これでおわかりになると思います。たとえば台所の油などに火が入り炎が勢いよくあがると、この火の勢いにおどろき

頭から油をかぶり大ヤケドをした主婦がいました。まず、身の安全を守りましょう。

流言飛語に注意

大地震が発生すると必ず、いろいろなデマが広がります。あの十勝沖地震の時に「再び大きな揺れがくる」とか「どこどこが全滅した」などのデマが広がり、不安な気持ちになったことがあります。町には農村地区がエリヤの無線施設がありますので、万一の時には、この無線をフルに活用し、各種の情報をお知らせすることも考えています。また、市街地区は広報車を巡回し、正確な情報をお知らせいたします。絶対にデマにまどわされることなく冷静に行動ください。

町内では駒島地区の被害が最もひどく、住宅やサイロが倒れました。町で調べた被害額は一億四百二十七万七千三百二十五円。その当時の町の予算が七千二百二十五万五千円ですので、地震の被害がいかにひどかったか、おわかりになると思います。被害の主なものは住宅の全壊三十二戸、半壊千九百九十三戸、当時の町民一万七千八百三十六人のうち七千七十九人が、ならんかの被害を受けました。だが、幸いにも火災の発生はなく、人畜の被害も負傷四人、馬一頭が死亡しただけでした。



十勝沖地震で壊れたサイロと住宅

万々に備える

町民交通障害保険

家族ぐるみで交通事故に備える となりました。この町民交通障害町民交通障害保険の切りかえ時期 保険は、発足以来、今年で九年目

交通事故について気軽にご相談ください。平日は午前九時三十分から午後四時三十分まで、土曜日はお昼まで、専門の相談員が親身になって相談に応じています。相談無料。日本損害保険協会・札幌自動車保険請求相談センター

札幌市中央区北三条西三丁目 富士ビル四階（五番館の隣）
電話〇一一二五一一三七三二

今では町民の皆さんの間にすっかり定着し、また、昨年から一人二口まで加入出来ることになりました。この町民交通障害保険は幕別に住んでいる方、また幕別町内へ通勤通学している方な

ら、どなたでも加入することが出来ます。保険期間は四月一日から一年間

三月中に予約申し込みをした方は一年分一口四百八十円、二口の場合九百六十円、中途申し込みの場合は月割(四十円)となります。

保険金は国内で車輛(電車、自動車、モーターバイク、自転車、荷車など)に乗って事故にあった場合または、これら車輛にはねられたり、ひかれたりした場合に支払われます。ただし船舶などによる事故は対象になりません。事故にあった時は、ただちに役場町民課交通防炎係にお届けください。保険金請求も町民課交通防

災係に申し出てください。その際次の書類が必要ですので持参ください。

- (1) 被保険者カード
- (2) 警察の事故証明書
- (3) 死亡のときは死亡診断書と保険金受取り人の印鑑証明書
- (4) 保険金受取り人を指定していない場合は戸籍謄本
- (5) 後遺障害保険金および医療保険金おときは医師の診断書

支払われる保険金額

- 亡くなられた時(事故にあった日から180日以内にその傷害がもとで).....80万円
- けがをして失明したり、片手または片足を失った時など(事故にあった日から180日以内にその傷害がもとで).....50万円
- 治療期間6カ月以上.....12万円
- 治療期間5カ月以上6カ月未満.....9万円
- 治療期間4カ月以上5カ月未満.....7万円
- 治療期間3カ月以上4カ月未満.....5万円
- 治療期間2カ月以上3カ月未満.....3万円
- 治療期間1カ月以上2カ月未満.....2万円
- 治療期間1週間以上1カ月未満.....1万円

(2口の場合は金額も倍になります)

いする書類がありますので、くいしいことは町民課交通防炎係におたずねください。

指定金融機関制度を採用

公金の取扱いを銀行に委託

4月1日から

町では四月一日から指定金融機関制度を採用し、現金の取扱いを北海道拓殖銀行に委託することになりました。

指定金融機関制度とは、町が現金の取扱いを銀行に委託しておこなうことをいい、収入、支払いを取扱う銀行を指定金融機関といいます。また、収入のみを取扱う銀行を収納代理金融機関といいます。

このため四月一日からは

■指定金融機関―拓銀幕別特別出張所

■収納代理金融機関―信用組合

幕別支店、信用金庫札内支店
幕別農協、札内農協、帯広の各銀行支店

となります。このため四月以降の納入、支払いは次のようになりますので、ご承知おきください。

町税、使用料、年金等の納入取扱い

(1) 拓銀、信組、信金、両農協、帯広の各銀行支店で、今までの通り納付取扱いをします。

(2) 役場、支所、出張所でも今まで通り納付取扱いをいたします。ただし役場窓口(出納)のみは銀行の領収印となります。

町が購入した物品代等の支払い

(1) 四月一日以降は原則として口座振込み払いとなります。このため、後日、振込み先の銀行名、口座番号などの照会をいたしますので、お送りしたハガキに所要事項を記入のうえ、提出くださるようお願いいたします。

(2) 請求書のない場合は口座振込み払いが出来ませんので納品と同時に請求書を提出ください。

(3) 役場窓口で現金払いをする時はあらかじめ電話などでお知らせいたします。

火災予防運動展開中

焼死者事故防止を重点に

「焼死者事故防止」を重点目標に、ただいま全国一斉に火災予防運動が展開されています。

三月の声を聞くと寒さもやわら

ぐため火の元の注意もおろそかになつてしまっています。火災はこのような気のゆるみに発生します。火の元には十分ご注意ください。

商工会で永年勤続

者六十九人を表彰

商工会恒例の永年勤続表彰式を二月十一日午前十時から商工会館で開催しました。今回表彰された

方は六十九人で十年以上勤続の方は幕別町長からも表彰を受けました。

▼勤続三年 菅野久枝(幕別興業)、政氏明夫、寺田久子(うしお家具)、前川博紀、雪田俊幸(堂前工務店)、塚本要、中山半



次郎、田原修一、小野邦子、土井秀子(日本通運)、石田正衛(大岡建設)、吉川巖、堀内恵美子(藤原工業)、遠藤正司(菊地測量)、松井康雄、長谷教亨(長谷左官)、菊野治夫、古谷清、井上義雄(村上土建)、近石雅晴、晒

谷秀則、樫尾砂子、古川マサ(駒野製パン)、池上幸一(萬和建設) 東原元市(亀山建設)、筒淵満州子(木川商店)

▼勤続五年 大沼哲郎、若原栄一、大沼徳三郎、佐藤泰正、山田康彦、尾崎達夫(幕別興業)、目黒正一(田村鉄工所)、林正義(日本通運)、二瓶政子(日成ブロック)、金岡善之助(縹緗鉄工場)、建部秀義、松浦陽一(菊地測量)、熊切寿弥(東横ブロック)、加藤勝美、柳沢芳夫、加藤幸雄、羽賀俊春、加藤政夫、石川美代子(加藤左官)、表句子(笹井金物店)、斉藤功、木南勝芳、斉藤梅子、菊地輝子、上井久子(駒野製

当選者は早目に引きかえください

お年玉付年賀はがき

昭和五十五年の年賀はがきお年玉当選番号は次の表の通りです。賞品の引かえは七月二十一日までとなっております。早目に引きかえください(幕別郵便局)

等別	賞品	組別	番号
1等	コンパクトカメラ	A組	063102
		AB組	622727
			548146
2等	ポケットカメラ	A組	01340
		AB組	55111
		AB組	577 692
3等	手紙セット	AB組	577 692
4等	切手シート	AB組	41 61 81

母子健康センターの助産部門

廃止の方向で検討

母子健康センターの助産部門は昭和三十六年に開設以来、多くの町民の皆さんに利用されてきました。町では最近の利用状況や将来の見通しに立って、町民保健行政を総合的に充実させるため、近く母子健康センターの助産部門を廃止し、この施設を「町民健康センター」に衣がえすことを検討しています。

多くの方に利用され親しまれてきた助産部門の廃止については、いろいろな意見があることと思

ますが、このところ利用者は減少し、町内全出生数の二〇%を割る状況にあります。

これは、母子の異状に対する緊急医療体制への不安、病院における化学的諸検査の充実など医療格差の問題のほか社会保障制度の充実も一因と考えられます。

これらを総合的に判断すると、この際、助産部門は廃止する方向で検討せざるを得ない状況にあり、この場合、母子健康センターの施設に改良を加え、町民の総合的保

健指導を推進する中心的施設として内容の充実を考えなければならぬと思います。

なお、廃止する場合の低所得者

こんにちは

スペイン美術賞展に入選

木戸 秀夫さん

札内春
日町の大
戸秀夫さ
んの作品
「ランプ
のある風
景」がスペイン
美術賞展に入選
しました。
大戸さんは東
小学校（帯広）
の先生で道展、



独立美術協会などに数多く入選、また、昭和五十一年には幕別町功労者として文化奨励賞を授彰しています。
なお、スペイン美術賞展には今回が二回目の入選です。

に対する配慮は、町が経費負担の方向で検討しています。



町内のスキーヤー百名が参加して、第一回町民スキー大会が二月十七日町営スキー場において開催されました。



西猿別地区の婦人学級では古着を利用した作品展示会を近隣センターで開きました。



途別地区のお母さんたちが牛乳を使った料理講習会を2月5日公民館で開きました。



七十二年の永い歴史をもつ美川小学校が三月で閉校することになりましたが、いま校下の皆さんの手で、閉校記念誌の編集と記念式典の準備が進められています。

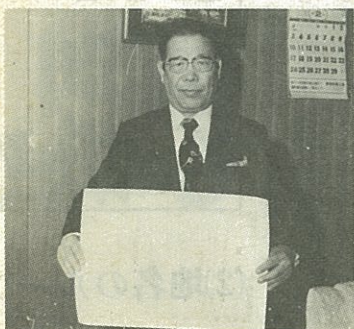
萬さんに紺授褒賞

日置砂利に褒状

町にたいし多額な寄付をした一人、一会社にたいする紺授褒賞と褒状の伝達式が二月十九日に役場応接室でおこなわれました。

帯広市の萬照喜さんから町の社会福祉事業に使用してほしいと二百万円の寄付があり、紺授褒賞が贈られました。

日置砂利工業株式会社（帯広）から町の交通安全対策に使用してほしいと百万円の寄付があり、褒状が贈られました。



▲日置砂利社長(左)と萬さん



4

●3月2日(日) 午前9:30から
ふるさと館 ひなまつり

教えて 教えてください。

●十数年前であれば、水があるところには、必ず魚がいたものです。電線や牧柵にはトンボがすき間なしに並んでいました。

幕別の自然はどのように変わってきたのかを、昔いたのに今はいない生き物の話でつづつてみたいと思います。「この沢に〇年位前にカニがいた」「止若橋の下で昔はヤマベが釣れた」——そうした話をふるさと館へお寄せください。また「今でも〇〇山にエゾシカ

がいる」といった現在の話もお待ちしています。

ふるさと館ではこうしたみなさんの話をもとに「ここにこんな自然があった——幕別自然マップ」を作り、特別展の会場に展示します。

●「ドロの木の子葉が一錢玉の大きさになったらイナキビをまく」「柳の花粉が散ったら麦をまく」……農業をはじめ昔から伝えられる、春の生活の知恵を教えてください。

現在の私たちの生活は昔と比べると、自然と直接かかわらない環境が多くなってきています。しかし、体の健康に役立つ話をはじめ、現代生活でも無視できないことがたくさんあるはずですよ。『おばあちゃんの知恵・おじいちゃんの知恵』を私たちは学びたいと思います。

サケを 放流します

昨年の暮れに館内の水槽で自然ふ化したサケの稚魚は、約五匹になりました。

春の特別展の会期中に、約二百匹の稚魚のうち一部を残して大部分を放流します。放流する川はふるさと館の近くの途別川を予定しています。くわしい場所・日時は、来月号のこのページでお知らせします。

一部は放流せずに残して淡水で飼育を続け魚体の成長を記録していきます。この実験は、サケ・マスふ化場札内事業場(田浦久雄場長)の指導で行います。

連載・第3回

幕別 ものがたり

(2)地名のルーツ
(その2)

前回につづいて今月号は、札内地区および他町村に隣り合っている地域を紹介します。

(オ) 札内(サツ・ナイ：乾いた川) 現札内市街。昭和十九年まで大字名は別奴村と呼ばれていた。

(カ) 白人(チロットまたはチリオトウ：鳥の多い沼) 現在の千住地区。千住地区は昭和十九年の字名改正前までは白人と呼ばれていた。

(キ) 途別(ト・ベツ、ブツ：沼から出る川) 現途別地区。明治三十年四月から入植が始まる。同三十三年には晩成社途別農場で七反歩の田を開き試作した。

(ク) 弘和 昭和十九年に弘成、協和の両部落の名を合わせて改名した。大正十年四月から入植が始まり、開拓時代は新画と呼ばれていた。南と西を更別村に、東を忠類村に接している。

(ケ) 日新 もと新田牧場の所有地で「新田高台」とも呼ばれていた。昭和十九年の字名改正で、前途新進の部落の意味で名づけられた。旧字名は途別。

(大内秀一・記)

第3回特別展

準備中

生命が 目ざめ る春。

もうじき幕別に遅い春がやってきます。サケの稚魚が海に向かい、草や虫たちの生命がいつせいに動き始めます。

第3回特別展示は「春」をテーマに、幕別の春のようす、そして自然と人々の関わりを描きます(期間は四月から五月までを予定)。いま、ふるさと館では春の特別展を準備中です。

幕別にはどんな動物や植物がいるのか、春の食べもの(野草)、昔から言われる「カッコウが鳴いたら豆を植える」——自然のサイクルに合わせた人々の知恵や習慣、「大病は春起きやす

ふるさと館 春の百科

い」のはなぜかなど、北国の春、幕別の春をいろいろな角度からとらえてみたいと思います。

科学が今のように発達していなかった時代、人々は自然と共存共栄してきました。今よりも人間がもつと自然とかわつて生きていた頃、自然の動きから学んだことは、まさしく生きるための知恵だったのです。本州方面の気候しか知らない開拓者たちは作物を植えて収穫するために、北国の自然のリズムを覚え記憶してきました。

知らず知らずのうちに自然の動きに鈍感になっていく今、ちよつと立ち止まって、ふるさと「春」を見つけない行きましよう。